藤
英
純

春

平けくあんなんの奇合よりて侍りける　壬生忠岑

春くれどいとゞうすみすゝもえて行くらん雲の
末の松山

兼平法師の家の屏風の歌　紀文雄

春霞たなびくとこそ聞しかど人
の見ねとて侍りける　心を素人

さのゝ中つ宮の社の歌合に春日詣の
冷泉院東宮おはしまして侍りける時
おほきゝ　源重之

[illegible]

聖武天皇時月次屏風ノ　素性法師

[illegible]の[illegible]ものとなるあしたよりはつかぬ雪の[illegible]

天暦十年[illegible]合ノ　保順

[illegible]

[illegible]　平　秋峯

[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

我宿の梅のなかめしてみてしかの雪とも見えてちるかな

天暦十年三月廿九日内裏ノ合ノ

中納言敦忠中務

雪のおちてのちのやどの雪はかきはらはんとおもへども

うくひすのなくこえはかきはらはんとおもへども　大使家持

おきてしかの雪はつもりつもりてはるのきたるとしらずして

鄭[illegible]

梅花[illegible]

柿本人丸

梅花[illegible]

延喜御時屏風ノ　[illegible]

梅の枝よりかくれてうぐひすのなくこえはるかなり　つらゆき

月夜ノ時屏風ノ

[illegible]

[illegible]

平かなり

きらるゝ

我ちねの梅のたちはやうてつんぬしの御覧をまつ

そうし

紙流の山屏風

高とくあしらひおやん梅むしのやうに新立ちかしろ

そうそのよ住ちりけるゝ新流屏風

はつ〳〵ゆき

白雪のいりゝ衣を梅むしろもまとをとるかつる

たつしゝて　人九

あまからぬ家のあつまえと片岩の新の家今見ゝ焼ゆる

恒住たちの家の屏風

ゆきゝく

聖こうれいゝ家つまりゝむしこゝろ恒住の家のあまの家に

ゝちとを伝へして　参勤流古製

寿日聖とのおほく社会ゝつゝ　老きのあいのあとゝ

たいゝ　大体家持

まの聖とのさゝの家ゝ家内ゝ聖とを有やと金きれ

おほきさの家ゝ家内ゝ人のとゝたちゝる

時たいこの庭門のおまえ人ゝひゝ名ゝ有

おまえゝ家ゝ塚ゝ家ゝ聖ゝ月きのの

日つゝ庭ゝ名ゝ

松のとゝあく聖のおそとゝ梅寿日ゝ名れ

影ちゝくゝ　たゝゝ

孫の日ゝ聖とゝ松のあゝ世のゝ世ゝ伝のとゝ

入乃武ゝ世のゝとゝ日ゝ名ゝ

ふ年まで限りなき松もなかりけるかな　大中臣能宣

延喜十四年屏風のうた

たちなれて

梅花まさに散りぬべきかの山の底は緑なる苔の衣

たいしらべて

はなたむるこのかたちの雪ふるのかの苔の衣

梅花よりかくれんとすれども

他たれくいる我宮をよ梅の花

散まがふあるとうつる梅をもの

大中臣能宣

吹風を何いとひなん梅花ちりなばなるる

匂ひを風にあるも梅花ちさきあやなきふちにあ

ちとすれば風のよるまもなく柳の糸はくれなゐ

屏風に

大中臣能宣

そそそろ多も柳の糸よりてそそろ

たいしらべ

元の内侍朝恒

まゝ柳の乱田の糸をよりかけを

花ぬすむ乱田の糸のもとにふる人を

ふるまろとくれて仕ふ人をとの

中務

[illegible]

[illegible]

天暦九年内裏の合所

よもすがら

[illegible]

たいしらまと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天暦御時麗景殿女御と申れし時の合

しらくるま

はるの花盛

まさ[illegible]

平[illegible]の合所

たちばな

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まくらのくさ田乃ゆわ[illegible]けて人のゝまくらとてくゝ
業平ゆ[illegible]中文の[illegible]ろし[illegible]ゝる時の屏風よ
無名内侍
まくら田と人ゝ[illegible]て我ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
宰相中将[illegible]卿[illegible]ト都屏風よ
つゝゆゝ
あ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]屏風[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
伊勢ノイ
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

紀ゆきて

天暦の御時に屏風に　菊の花

菊のきせ綿をみて　小野宮

よろぼひぬれば

紀しらず

[illegible]

屏風に

[illegible]

たつしらず

[illegible]

よるべ人しらず

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天暦の御時の歌合に

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夏

大中臣能宣

天暦御時歌合

[illegible]

扇風

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

神まつる者の御ぞ白布のゆてゆかりとなりやまれる
たいしてゆ　よるべ人えらしよ
山縣乃頃の嘆歌　花筏白布の衣かけしゝ
時うるはしかるべかりとうるまてよ頃の
まかけてゆるんともあるおりひしゝ山郭公とうるく嘆ん
初夏のきゝあるかたに時者るゆ程ふくらもしきつる
　　久米廣縄
　　延喜御時屏風
山ちとにあるゝ人もゆかゝ歌てたきめときつけてゝるよ
　　よるべ人しらて

山さとにやゝちりせんゝ歌てゆ人もたきゝ初さ物ほ
　　天暦御時の会よ　　坂上望城
海のゆゝ山流るゆゝ初ゝきゝ見たゝ山ゝいる今初の初ゝ
　　平一ゆ
除山出て秋ゝまゝうゝ時ゝ海のゝゝかけて春の山ゝ
　　寛和二年内裏の会よ　　大江為綱母
郭人初て結ゝ初や歌ゝいゝ山ゝゝ山ゝと初て出なる
　　世ゝのみゝの歌の会よ　　坂上是則
山縣ゝ人ゝゝゝ海ゝきゝ山ゝ秋ゝゝ春のゝゝ
　　天暦御時の会よ　　壬生忠見
小松ゝて孫ゝ山ちりせゝ歌一ゝ人ゝてゝゝ春のゝ

四〜月時古屏風に

三条のくらとはなしに時雨する秋深くもいせつるか

源宣旨

わくらはのちるこの屏風に

紅やもみぢ山ぢくれとつ歌に今一首の中に屏風に

歌如彩色の歌の屏風

つくもがみ

ひさしくふるる人の家にて山水絵ときくらん

よろづ人〜

延喜侍所会

五月五日ちくるとて法師の

ひやめ天竺もみき給は

屏風に

大中臣能宣

さのかさてよろづよちとしのやめ世今日我君のつまとなるか

たいしらさと

よろづ人〜

多武峯の家にちくるひやめの世の歌

延喜侍所歌

五月の山時鳥ちくるとてやあやめの世ま孫ちくるく

ちくる人〜

詠神ちくるひやめ歌に和さうもの村はあくらん

天暦侍所古屏風に法の法のちくる人今世ま

壬生忠見

何ま山ぢ紅ちくるもの法の法ちくる紅葉は

ちけるとはこのちくる法ちくるのやうと人今ちくる

小野宮大臣家屏風に

ちくるかとあるに

つくもがみ

かのくらにさやあるとてせよ時ちくる人はかくらん

けるぬんかの家の会は　そうま
あるべきものかうあけうあひらおくれるこの月夏社会
らるくんしと
題しらず
あけやなけるる田れの山の時をしる月夏のあるとろ
夏月夏のうの称聖○時をる秋原くのんあるとを行とて
うくそ人あるそんあるとほくきひ秋色ちをる秋やとあく
大伴坂上郎女
時をるいろそれるそひうあるそいの秋ものるのくるり
中務
うあれの色をあるうあるうるるやもあるのいをあるれ
夏は秋虫語のるるの鳴あれけあるのてるうしん
延喜御時中文会の会は　よるんんしと

文うれそ原をよ山の時をるのあるのまるけくあのまるる
まるあるよちのうひうる後よくるそ山よ時をるとひ
うるうる不　藤原安方朝臣
夏月やくるけ山の時をおはつあくまのるる
たいしと　よるくんるん
時をるるやる夏月のみしる秋もひうるめれるのつも
夏文方大中臣屏風よ　原順
歌を行よ書てやうりする人も山色と秋とのをうん
延喜御時月次屏風よ　はるる色よ
三月山吉れ下雪とのの尖屏のをとのるくう

九条右大臣家のかすりの屏風に

平さだより

あやしくも春のさとのさくらかな金のごとくに我やらんとて

藤原公任

物思ふ人をとゝめし交じのの赤はかけばさくらかりけり

延喜御時の屏風に

交じのかけをあけるゝむまのあるに人

河原院のいつきのもとにて

恵慶法師

松かげの岩井のみづを結びあげて交じの年と云ひるべ

藤原伊尹

春の夜のうたゝねにこそ人のうきをつくるなりけれ

いせ

いつくにか咲かすらめと我やとの大和撫子をよそに人しらで

凡河内躬恒

ゆくすゑはいかゞなるべきなれの花ちるこのもとにたちよりて

紀貫之

はるかぜにおくれぬるかとおもへばよそにぞ人しらでうつろふ

紀貫之

君大和撫子とうつしうゑて秋ぞ結びのみこそ見ん

たゞひろ

たゞひろの内より屏風でして

さくらの事

おかぜのをのりぬるまにあけりけりひとへ咲くもえだの成はな

なるべ

拾遺和歌集第三

秋

秋のくれ　安法法師

夏衣ぬぎかへてのみ秋の袖を
たがいとしてか
秋ぎりのたちかくすらんかりがねの
はつかに聞ゆ　延喜御時屏風歌

秋の野のをばなが末にうつろふ
河原にたてる秋風の人をもとめて
人くとなるかな　あきなく　法師

八重葎しげきやどとは思へども
秋ぎりは

安貴王

秋ごとにいかもとのゝ[illegible]ひめ[illegible]の風ハ袖にも
延喜御時屏風に　　そつま
[illegible]の[illegible]秋をよ我さへのやゝ人[illegible]なし
はゝそもゝ

紅葉よ秋の夕ぐれを天の川[illegible]とは[illegible]
[illegible]　　かさのもの人
天川をもよりよりあ[illegible]ゝ[illegible]
あ[illegible]
小秋をて天の河をとう出てゝ
よそひ[illegible]
湯原王

[illegible]
人まろ
延喜御時月次御屏風に
はゝそもゝ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

いとしくもかなしうもとおもふ家今日のさかりにあるを
たいしゝさて　よろぼ人へ
あるとてもあらぬ歟なく歟ゆかしけるなき
歟のるるひとうそ天の川ゆとまりてもさきなん
男こそは雅ようなれ歟あの坂ひこぼしの彩りのも
女ゆゑもおりる彩りの花の花の花いろいろとけてきまくゆかん
もしたゆく極しもたるく女ゆゑもむるこゆゑもとるる
いちはやもさきるのむ女ゆゑもゆゑ花ゆゑかるる
たゝゝゝるくしあるくさけるゆゑまきうて
よしのゝ　小野宮太政大臣

女郎花自のゝうにむるれなのやあく春やん春ん
たいしゝさて　よみ人しらず
白雪の雪つもふする女郎花あるらしと人家ゆゑ
咲ゆゑは女の栽りるはなりて　菅原朱雀
日ゝにはるれもひるの女ゆゑもの今ゝこゝにひるの指
八月ゝりるるのゝ女ゆゑ行ゝゝ行ゝる
　　あの葉の清師
萩の葉もやゝ打ゝる行ゝあるの花ゝ乃今の春あるゝ
　　新院扉風に
かりにてゝくゝりゝゝや女のゝ乃もみる行ゝ日ゝ風
　　よろん人へしらず

秋のあつまりの花のうへにて女房たちの
かりにとて歌よまれし女房たちみるまんぞくもひつきあるか
陽成院の屏風に小野小町かりしらるる
かりにのこりの一番れた女房たちの後にて家ゆきうるとる
こゝろ[illegible]のおもしろき女房栽うるさせられて
色とりあわせてあるをれを
極楽寺殿の屏風あれさむこそてあるもの
いせ
たいしらるて
まてるる所はかりれ和うれ
よろそんしらと
おれるる行うるはうるまむくに宿りて

大納言のこと
延喜の御時月次の屏風
ほとゝぎす
屏風は八月十五夜池のあるの家の人あるひしらる
ところ侍
源あるさうる
あれ屏風にてる月あるとかうあれ
うるる月の屏りて侍ること
よしのふ
秋の月波の高うる出てうる侍るんこのかひやあるん
虎岩の家のうるる秋の月おり侍る池

ある家あるところ　　源宗明　右兵衛尉景明

姥の月見るまゐるとゐるゐるの絵ゐるゐるゐる

　　為離院殿時八月十五夜　　ゆきすけ

あるのゐのゐのゐんとゐるゐるせんかくあるゐゐゐ秋のゐの月

　延慶殿時八月十五夜　義人ゐのゐのゐゐゐ月の

　ゐゐんゐゐゐゐる　　為宗経卿

まゐゐゐゐ出ゐゐゐゐけゐ秋の月ゐゐのゐゐゐゐゐゐゐゐ

　同　殿時屏風　　ゐゐつま

ゐつふゐゐゐゐゐの月のゐゐゐゐんあゐゐゐゐゐゐ

　ゐゐゐゐゐ　　ゐゐゐゐ

為ゐゐんゐゐあゐゐん秋の月ゐゐゐのゐゐ為ゐゐん

屏風ゐゐゐゐゐゐゐゐ

亭子院の屏風に

稲ろかんとおもふに秋萩よあれぬとうるる雨ぶ

三条のきさいのみやの九月

九日の日

我宿の菊の白露をうつしこゝ世つのりて消ぬべし

ぶしらに

長月の九日にうつむ菊のなもかひなく老ぬべし

在原のなりひらの屏風に

たくらの

みるかのさかの川辺の菊ちるもとの水にかゝれる

延喜御時の屏風に

つらゆき

風ふきこゝかの夜ふけの時ふる萩の下葉もうつろふ

三百六十首の中に

神無月の三日の夜ふけの雪ふれる下草かけてうつろふ

ぶしらに

大中臣能宣

ちぢにもあらぬ山の紅葉ぞ時雨ふる

ゆきもあとなきの山の紅葉ぞ秋をもとる

吹風

秋ぞの野の吹こゝろ萩のおもひ乱れて

焼風をうしく物うらの花ぞ落ぬ

たつをくゆうて伝ふる

ふるさとうてあらぬ雨ぶ

寛平御時

ふるさとを見るとなる我と思ふ

ふるやしろの川辺の柳ふるぶ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

行末ゆかしうて行くに時雨降りて行くに
うつりて行くれて
あらしの中なる所の山をこえ侍りけるに
二条右大臣西園寺の山さくらの陰子の忌に旅人宿
侍りけるに　後大僧都　延暦寺
法橋親教
今すいかの花のかげにやすらせおもむき旅の日数
過ぬ　　　

きのくにとてこちもとゆくらゆ秋ゆきなるもの外
うんの秋をこそうらせうとこしてはるる匠てしな
ゆくりなくもあり
そもて秋の如くなる色のハ我もとゆきの玉とこそ
みてなる

拾遺抄第八

延喜御屏風の歌の屏風に
紀貫之
ひのもとのこしのくにのしらゆきはいとてうつりの
寛和二年清涼殿の御屏風のみさしにあるを
よみ人しらず
細代本まかりつかうふ屏風に
貫之
けふ西なる
かをとこ山にはるかすみつゝ思ひこそやれ神なびの
よみ人しらず
神世月時雨ふりにし昔のそれとこそなき山かはるく

あらしのみやしろ　龍田川と詠まれ　紅葉ながれたる
くるれども　なほ　なほ　なほつゝ　なほつゝ　なほつゝ

龍田川　紅葉なながれたる　神奈備の　みむろの山　時雨ふる
ちはやぶるかみよとうたはれて

かつらぎ　村上　村雨　まろハ　秋の　かつらぎ　たつ　あり
延喜　時代　女院の　みやの　屏風

かつらぎ　紅葉　ながれ　ハかつら　紅葉の　ながれ　たつ　あり
屏風所
時雨　かつらぎ　後　とゝ　人　ハ　紅葉　とゝ　神　ゝ　ん

百首　哥　の中に
芦の葉　まかれて　住しほの　むやこゝろ　ゆく　ゆく
たゝ　ゝ　ゝ　つゝ　ゝ
思ひ　妹　ゝ　ゆく　ゝ　の　秋の　川風　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　人　ゝ　ゝ

ひ　ゝ　ゝ　ゝ

[illegible]

池みやゐのうちんあーうめ　紅梅源氏のさくらかるふ

紅梅文刈

[illegible]

[illegible]

屏風よ

[illegible]

平かひとり

[illegible]

[illegible]

恒徳公家の屏風よ　うのよ

みちれあしのあもうの松うけてうゆのうりけるもうすけ

[illegible]

きのうのり

[illegible]

人まうろ

[illegible]

[illegible]

もうすけ

[illegible]

たいーーん

[illegible]

よろんーーを

[illegible]

月とえてよめろ

[illegible]

天の原ふみくやはらくんぬ月のよの月
　　源宗明
知るとてやつもとゝる袖をハようれ〳〵ふるはやたゝんん
　　安とかくるひ行くらゝ年ゝ経よりゝ行くこゝろと
うゝく行くれゝ雪のふり行くよ
　　もとゝけ
海ゝもけふ行くゝるあゝ雪のうゝふるゝ行くゝる水
　　山あひゝ雪の消りかゝりて行くゝと
　　いせ
見引の山あひよりあゝ白雪ハとゝる衣のゝゝちゝ
　　赤染の屏風よ
　　ゆゝゝ之
秋なゝハ月ゝゝ見ゝ我やゝの屋白おゝゝれる白雪

歌〳〵〳〵
赤やゝの雪ゝつけてもゝゝさゝゝのゝゝゝ山ゝゝゝゝゝゝゝ
屏風の雪ゝゝれ白ゝゝゝて行くゝる和よ
　　菊茶佐衛門
我ひゝゝ越の山ゝゝかゝゝ雪ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ水
　　たゝゝん
たゝゝゝ
年ゝれゝゝゝ白山老ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
入ゝゝ行ゝの家の屏風よ
　　かゝゝゝ
ゝゝ行ゝゝハ行のゝゝゝゝゝれゝ山いゝゝ世ゝゝゝゝゝゝゝゝ
　　歌〳〵〳〵
山ゝゝハ雪ゝゝつゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

人丸

右大将定国卿の屏風所

ちるもの[illegible]しく時ハみよりの山[illegible]風の[illegible]おけ
[illegible]屏風に[illegible]
人丸
[illegible]
屏風に
あ[illegible]
よ[illegible]

梅[illegible]
屏風の[illegible]仏名の[illegible]
よ[illegible]

[illegible]
延喜[illegible]時の屏風に
[illegible]
屏風の[illegible]仏名の[illegible]梅の[illegible]
[illegible]
よ[illegible]

[illegible]
屏風の[illegible]仏名の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

賀

天暦御時新宮くらの行くらの時の長奉送使

中納言敦忠

[illegible]

[illegible]代の初[illegible]

[illegible]

大中臣[illegible]

[illegible]

仁和の御時大豆生の命　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

清原うしすけ

行年てゝ行くゝ
ゆきまるきちゝ如の岩よりつきて八百代のゝちつきの絶えなくゝ
苔氏のゝ如やこまりて　よしのゝ
ふるそゝう枯もきぶまゝ日山寺ゝと松の絶ゝとゝ
ゝやの七枝ゝはゝりて
黒ゝ毋ゝ八百の年代とゝゝれハかゝくゝあゝ七日こける
右ゝ苔氏ゝ実ゝ貞ゝ如やの七枝ゝ

平かひより

今年ゝ八の松ハ七日ゝありふゝ苔のかゝとゝひとゝやれ
あゝゝのゝ如やゝはゝりて

よしのゝ

ちゝせゝも枝ハゝゝ世中ゝ流ゝゝ身ゝゝゝゝ

苔原誠信元服し行ゝゝ枝ゝゝ

源順

若ゝれゝゝ日ゝゝゝゝゝ黒ハゝ世ゝゝ黒ハゝ世
みゝのゝゝけゝかゝゝゝ行ゝゝ時

よしのゝ

陸奥ゝゝゝゝゝ山ゝこゝ紀ゝゝゝゝ
天暦のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ今泥ゝゝ命ゝゝゝゝゝゝゝ山ゝ寺
つゝてゝゝ枝ゝ枝ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝりてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てゝゝけゝゝ中ゝ

かひより

山ゝゝのゝゝの黒ゝゝゝ松ゝ抜てゝ紀ゝかゝゝゝゝ行ゝ

なをたうく三位なの山ろくにあるひのもとさとあるし
[illegible]年中行事の かえし 仕るる時の屏風よ
[illegible]かへ[illegible]杖と竹との末の世をいつれひさしくまのくろうえん
[illegible]かえる竹の杖つくりて仕るよ
大中臣 [illegible]基
一ぬしとなる代とこあるる杖なれとつくもつきまをあらはるこひ
[illegible]なる十かえし仕るる時の屏風よ
[illegible]
[illegible]世と仕のうくうくんしたくられ石のいとりかんなれもあるよハ
[illegible]柿の緑の糸とくりかへいくるのまとへあるん

我やとよ[illegible]の[illegible]
おなし人の七十かえし仕るる時の杖とつくりて
[illegible]
[illegible]あるくふる竹の杖なれまくもつきをぬとくるれる
[illegible]山なるてつくる杖なれを今万代の坂のくもあり
一条摂政中納言仕るる時父の大臣の五十かえし
仕るる屏風よ
小野好古朝臣
[illegible]風とくもくれと君ををもひの新[illegible]のけき
[illegible]中納言[illegible]母の[illegible]仕るよ
源[illegible]忠[illegible]臣
万代も杖[illegible]のくぬ[illegible]
[illegible]

又家内行のうの加賀民部卿屏風に　いせ

たちてとまれるうめのはなのかをりにあかるくなるかな
まこのはなのかをりにあかるくなるかな　九条右大臣
天徳三年内裏の花宴せさせたまふ
はるくるをまちかねてさきそめしはなのかをりにあかるくなるかな
たゝ〳〵と　よみ人しらず
かすみたつはるのまこのはるかぜにはなのかをりにあかるくなるかな
高子后の宮の
三条の后の宮にまうでたまふのちはるのはなさくまこのひるかぜ
康保三年内裏にて月せさせたまふ所にて

のとのこゝろをわかせたまふ　菅原のみちさ
小野宮太政大臣の初めて日ふかせたまへりけるを社引へうられ
よはるる時よみ侍りける　三條右政大臣
ちりぬるは世の初めて日ふかせたまへりけるを社引へうられ
延喜の帝時に屏風に　はるゝゆき
松をのこゝろにかけて思ふ事ありとも流れて氣も絶るうらり
歌　〳〵　よみ人しらず
如月のあるひは後すなはちの人いかゝ年の命のあるうち
承平四年中務の卿の宴し侍りける屏風に　参議伊衡

御後して男子ことをを行ふ八百萬代の秋のあんく
天暦御時お裁のえん日をを行ふは　小野宮左大臣
ゆ代よかくこゑぬ花のさかれいつるもの秋ふ人さん
廣瀬氏を家うてくこゑ分よりを世行ふ行ふ行ふ村
のとうに虫とこゑ乳代

千年とうこゑ村こゑ世ぬこゑ世ぬこゑ世ぬ　平うれうう
右大臣源のひろ代れまお裁合ー行ふ行ふまけ
ワさをうこゑ行ふたちこゑのすけをこゑ行ふ行ふ
よこゑのうこゑ行ふうて行ふ行ふ行ふ
行ふ世よ

たう年の歌とりかうん紀かりみる歌あり御のまと
天暦御時御詠を御文ちうてよこゑ世行ふれそ
ゆ紀ゆ紀ゆうてこゑを留行のまの世なくかん拙しハ　よしのふ
かうんいこゑ世行ふうふ行ふうふ行ふのかをといつけを世
行ふて　いせ
ちこゑ世ふも行ふいのんうこゑにをむーふのうこゑをもうふく
たいーふをと　うふう
きをを代ふあまねを行をまれをきをあまねをあまねを
加ふの屏風よ　をこすけ
うこゑなをゆこゑかのけてもこゑそこゑ乙女の神のうて
行ふ世

別

春ごとの今ぞうつろふる人を暁ふかくたちぞ出るか
ふるさとの待つらむ人のまもるらん
よもぎ人しれ
春霞たちぬるかぎりなるかぎりなるかぎりな

天暦御はゝ小式部内侍
大ぶんにて錦をおりて
内侍
裂
夜ふかくとこの
ぬしとなりて
ぬしとなりて
君の世をかぎりとなりぬ
十月はつかのあさ

あつまくらのふるさとあしたゆふ
ふるさとのしらくも

よしの

り未だ今もちぬぶらくあはやうかるん
大江あつ基あつまくやうくさかるね
ゆうくさかるとて

赤染衛門

みむしろなれあはしへまちつ
ほそうたるひうこ河のかうてけるむとの
りとふてうれまくはるりしるれ
はたはるこ河の八橋ものやうひはるん
くひうりうれてうこてけるるのそる

原忠

むけしはくて
ふはらはるとるれなれあはいてらねとるはるへと

きるのむふりれんのりふつりしら
はるしゆれ

芸政門院の禁こ芸なれ
ふてうけるるつれむせん
ふるはるるはくしゆ

天暦清慶

ふれはのるてはくしはてあふはをるね
天暦御時歌を配おらそまの思ふ侍るに
せんたすひるはふちはるりさくあひる
にてくられたりを

よみ人知

ゆをとと思さのかる衣たつよう神の寄けるん
はしめのとのせんはるとも女房と

[illegible]

御めのとの彼方へ

悔しかるべきやうなる旧とたもとをやとしの

女房人々河

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

実方朝臣みちのくに人にまかりけるに
[illegible]

東路のおもかげにくまなかりしかば
[illegible]

積りぬれば
[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋の夜ふかうなるこゝろをよみて

よしのゝ

女御殿の御方にまいるこゝろをよみて

ながこと

はるゝとてはるゝものとは春霞

あるかなきかの花もこそ

帥の宰相はるゝ〳〵ものとはなれど

はるゝとはるゝものとは

はるゝとはるゝ

見しひとのなれたるのゝ

あるかなきかはるゝ

贈左政大臣　菅

君すむる宮の柱はゆくとかゝるまでにかうるかれや

かぎの氣をとゝのへて侍りける

女院なりたまへるみて侍りける

かゝる

源のうへにはべりし小侍従

ちとせ

ちとせ

あすとてやかはらぬいのちなりけるとはなれて

榊本人丸

人丸入唐に侍りけるとうてやん

了仁寺

但上古文脈

拾遺さくあ所自ずまさ生七

梅名

紅梅　よさん人しるさて

雪のとつるあ梅と物つれハそらはさんとすらん

ちくち

むのいろとあくハよりてハなるあらぬいさくやふそうて

いそやふさ　菊亦をけん　うさくん

旅のいろやあさをとも物つれりるの梅と雪ハおけ

さるとりのも

ゆるるハのまさすれる雪にまさるとりれハかくもや

かるひのそれ　いせ

ちらう海の中あるにはのそなれ出てるゆとん中ハあまの

かいたてこと
こそいろをつくさくれなりんむこんをはけさんも
さくらのむさ　如覚法師
紫のそこいさくれむさーのいろのゆかりとんとにしもと
ちをつゆを　ちえん人しるべて
植てこそるこんさいもこそ　ふむものかとかしもつけんこあのあや
ふくくん　しさ
川くふ今ようくん個代こはまつの浦やゆんと　そくん
きちかう
あくんのまえちくるもうをこそちひもあをわつくう
あくうや
系やこのむのくるのくめもよのいるあくうりかい

けこう
忘れこうくんのけくもちきくむけまくとくらあるう
らに
秋のくまえてこむとわつれくるらてみを忠高名れ
かくうや　忠岑
ゆ春のかくうやて情さくいるよ紫くるむのけーけあまは
くくこのさくれ
山川いくあくれを浅くせとせけい潮くう秋いるるん
むむー
酔つくあくるむつむちくふ酔いあくうくとくうるはな
ひくくー
今くんくうひて図あくうるひくこのくくとのくくうさく

仙人ハ笑本ひくらしあ川の山の山ぎわ初こゝもむらり
秋の〇八秋のゆくゑ山ぎわ色ちりそゝとゆけて風をいし
ひとりしらく　　補相
あさぎりもくもるもとぞくるあしもるものあるとうとうさ
ものとちるこうけ
雲のをハくるけるもめしまに風ふきまさせていつちゆくん
やはし
ふるさとあやはとうんふうこの形中の市ハ笑ア絵
いあこの
もとみうのとゝれ松をはしうれハ為ハ浮ゝひぶゝ
くるもの

白波のうちかくるものハうねゝ往ゝうあゝ往れ
これ為ハあまのまゝてたりけるとゝて
ゝもあく弁もかゝゝ為ハ波ハいそうあまのるやあかゝん
よわゝ川　　左京元方
植ていうゝ人もゝあくゝ秋萩のゝれんゝかハむの屋ゝん
はゝあゝ

あゝ川の山ぎわとれハ白雪のいゝゝせゝゝけゝ時雨さ
とらのハ　　左京業平朝臣
はゝゝもゝゝゝれゝゝゝ(為)たちのゝゝ川の松のゝゝあゝる
ゝ為のゝゝゝの山ぎわかゝ縁はゝ師のやゝゝて
ゆゝゝゝゝゝ地ゝゝゆゝゝるはゝ師ゝゝゝあゝいひけ
ゝゝゝゝあゝ

[illegible]

いめうしのこえ

[illegible]

あ〜あひのこゑ〜〜〜〜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古はおとれまさりかとひめれとうらうらも今はきらへ
おりこめ
池とそうこあらろみのおほれていひのくるりあまるあく
松しを
あしりの山下あつめれうそれ哭まつるけ衣あつん
いとへくるつくるかくをとんろ時いまつるけうるる祢こをおる
くくふくち
山ちみもひのくとも見ろへきこにくくいちめうまかくくぶ
こうこやく
野とうれいまをめ祝よくりまつらこうやくまこつあ哭つ
ろやしまつめ
いくりこしあまのとへいいつくるや俗哭くるてあといしいハ

河岸のくりおるくさ和あくくいうおさまさあ多ハあけ区
やまうくめ
あ紫くよ衣のくいおふるうり秋の山ろ絵くりくはよ
ろやろくさ
伊のとうやんくの世くいおもわてあやくむの名くうまれ
清くく
我んあやしくいうくまくれ哭むこつくくいりてあり名ん
咲もこありひつくくめあちくあさ多ふきあ哭ハしいて
つくくめ
紅波波ハくくあよのくくて無ふく名の風のさくあおれハ
くくくう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夜をこめて鳥のそらねはかるとも世に逢坂の関はゆるさじ

清少納言

夏の夜はまだ宵ながらあけぬるを雲のいづくに月やとまるらん

中宮定子

明かすとて月の入るをしるからに鳥の声までうとくもがな

清少納言

夜をこめて鳥の空音はかるとも世に逢坂の関はゆるさじ

中宮定子

夏の夜は月のいづくにとまるらん雲のあなたの空にあるらん

清少納言

夏の夜の月の入るを知るからに明けぬるかとぞ人は驚く

中宮定子

夏の夜の月の入るを知るからに明けぬるかとぞ人は驚く

清少納言

夏の夜の月の入るを知るからに明けぬるかとぞ人は驚く

中宮定子

夏の夜の月の入るを知るからに明けぬるかとぞ人は驚く

清少納言

夏の夜は月の入るを知るからに明けぬるかとぞ人は驚く

中宮定子

かの川のむかしをすきて流れ来ぬ千ゑ八千ゑ

かのそこなる舟をとどめて

かのそこなる舟をとどめて

小野篁

小野篁の友をとつまやをりぬ秋の夜

清少納言

一枝わけてしるべとなれる人ぞ

むまひつしるべとなれる人ぞ

むまひつしるべとなれる人ぞ

十九日

秋風の江方の山よりとのゝ[illegible]

雜上

月をよみて　　中務卿具平親王

世をうきものとおもふにもかくしかなる月よりなくなくはてん

法性寺家屏風に　　[illegible]

月のすむ者とはあれにたゝなはれ[illegible]

めをとゝれて行くゝ[illegible]月をよみて　　大江為基

[illegible]

法師[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はるかぜにおりはへけるときはつかのあと
おのことものよそにはなれるよ　菅原仲文

みな月の月の光と秋やとよ　あまのいさくふ光をそるぶ
参議玄上うめの月のあるとこの秋かとのまくとまる
とてせうこいれて行うるれハ

いせ

ものもいはておもふこころ五月さる我宿をて行時ハふし
花山ゝ春うりて行うるよ　弱ひきの声るとつらし
たうりなれを

藤原性仲

金月の弱ようとうるもつまをたうるうるふあてける
屏風乃歌

行くゝ雨ぞ

岩ゝもとうはるるふるのあるとをとて出る月かけ

ゝうよ

久ゝのあまつ雲ある月なれとつまのあて新やうゝん
唐衣ゝ後徒ゝ行うる時うるゝ人ゝ色
あつ雲てあゝ秋月ゝ月ゝ影とゝ世行うるよ

たゝ行海時

みゝ底ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝうゝるゝ海ゝゝ行のみゝうゝん

武ア大納文時

水のあゝ月の雲つむとゝんさりせゝ我ひゝとゝ思ひゝ世
涂目のあゝゝに今ぬ左をゝうゝつゝける

をゝゝゝけ

年ゝゝ経ゝ旧やゝゝりついゝふゝふゝ月ゝとゝつむゝん
参議源清時代屏風ゝをゝうゝ行ゝてまゝゝ人ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちの今なる松の梢ばかりちゐひさ波のあまつそら風と吹くなる　ちうん

延徳侍時法屏風よ　法しゐぐく

面影ゝ吹松風ハ波のなれと池の汀はなさてなるとそ

同し時大井よ行幸ありてくゝまつよゐせたひ

なるに

大井川かゝの松ことゝゝんかゝる行幸やあさしむらーと

後花園の法ゝさの時御幸しなる第人ゐく

かゝりけるとてよるん侍りける

まつあゝ雲やさゝりつるまゝよりの松のふ幸とふえつるぶ

面除の内侍のゝうの賀の屏風よ松の海ゝひゝりゝ

ゝゝと　いせ

海ゝのゝひゝるれのほゝみゝゝいゝまゐとふゝゝゝん

おゝまゝりけるゝよめさほゝりけるゝえてゝよ法師の

ゝゝとゝ侍りて　ゝゝのゝ

つゝゝ海の法ゝめれぬ海面ハ松ゝんむとおゐて孔まん

孔しゝゝて　よみゝゝゝと

かゝる法松ゝこゝに写ゝのあるなりしゝ人ゐしゝふ

あひゝゝゝひ侍ゝゝゝみちのゝゝへまゝりゝれハ

いゝゝ松氣分よゝてたけくまのあ松とまあゝん行人のため　よゝ松人

海ゝ法のゝ松をよゝん侍ゝる　保元後

ひ末のまゝしけよ海ゝ人なれさゝいさくおいまゝりゝゐ

題しらず　後人まつる

世中をうきものとおもふあまの子をゆゑ
はなれたまひしてをかけをかはしるせば
なるわくらはをつけ侍りける

法こゆゑ　はるゆき

法の世をふるあとをたづねてやなをとどめん
ひとりはなれしのをうてをりけるを

源為憲

歌をよみて西の海にまかれるをのこ社をとどめ
題しらず　よみ人しらず

をうらみをくて法をよまるる行の田舟もあさりくん
打あをいをくれの江のをふまをれをくれをやをねと

みるををりけるたうをにひらをしの巻侍れば

右為海時

約朝ひをしのをををあをこをや明られをひをのいをんん
天暦の時の屏風のをこをあをの格のをけら
のをつををおをををかをみををををを

菅原ときざね

世ををををををををを格けををををを紙をををををををを
大江のの基ををををををををををををををををををををを
かをををのをををををを紙をを紙をををををををををを

よををををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををを

いひ行くるを行をもてなすはゝうり行とそしたの
ものとまつひきしるくるる
見るなよ程ハさ野ゆるぬるもそ行月のゆうすを
ゆしくるて　はしあるよ
年月ハむかしのあるに袖行と思ふまつかるとうり
はなにゆ月林ちふまるりけるにとられてはうて
こそてよこ行りけり　蓮京後生
むかしわるり植のうひすもすて月の秋のめしいるひ
菅原の大臣かるふりしたるを見てよみたる
年月
ひるあるの月の植もあるはるりあの月ともふるせて
ゆしくるて　人まろ

月まに衣ハるこんあるよりうり行ひめるる
ちるるに人いるるもるりてきんゆ我けるゆるるまを麻衣
久るのあるるるるあやしるる我衣るのひる射るあるる
ちるるるるるる衣るかるあるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるれハ衣るるるるるるるるるるるるるるるるるるん
あるるれ行るるるるるるるるるるるるるるるるるる
あまの印るるるるるるるるるるるるるるるるるるる
うきるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
あるれるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
行るるるれて行るる時いるるるるるるるるるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ことゝよめる

川のせのうつまくみれてゝもうゝ数乱をうる川の舟

やまをよめる

あゝ秋のまうのゝ中の宴に向のひとゝれ心とゝうる

秋の宴

ゆゝしき者ゝ人も家ことやみとのひゝうかゝ秋れん

影しゝとゝ　清原元輔

人ゝれとゝあゝ川のゝ上あゝかけゝうつ

いとゝのゝ面ゝにまゝうゝ

人まろ

あゝ舟あゝ舟ゝ乱ゝあゝゝゝ

天暦十一年九月十五日内より

ゝゝりてゝゝてたまゝゝひとゝて　清原制表

あゝゝあゝゝゝゝゝ川ゝて嬉しゝゝゝゝゝ

参融池陪時歌　秋下

ゝ越行て

世ゝふれゝ文も山ゝゝりすゝゝ山ゝゝの今ゝあゝゝゝ

あゝゝの世ゝゝゝゝゝる時よめる

人まろ

あゝゝ川ゝゝゝゝ波一せゝゝゝゝゝ長ゝゝゝ

小一條大臣ゝゝゝゝゝゝゝれて秋かの部ゝ行ゝゝ

のゝゝゝゝゝゝゝゝ　小野ゝ太政大臣

ゝゝゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くり返すに　源宗岡

ちとせ経ぬる世の中にいけとしをおもふ人かずはさりけり
　　よろん人ちかくも

世中をいとはぬ人もえてしかな身をかくしたん
よの中をかくいひくてそくいふなるんとすんん
　　男はりりをとせらてけさとしはりてあるところ
　いひつりけり
　　古の三尾のたくなるあとをあをさとりしをとうんとろ
　　もとへ

拾遺和歌集第十九

雑下

ある所にまかりつまさこの花ちりかたなりけるを　紀あつみ

まかりつまひみられてこの花のちりいつまてかうんは
　　えらいのみこ業香原のとしこの花秋にうれる頃
　　はるこそひはなれ秋もおりしらはりとひれ
　　おもしろきさくらとおもはれいとくいひて作れを
　　たくさの始をんなせしかとそれみる時いつまてもはし
　　歌しらん　　よろん人ちかくも
まかさもものひとをなくるりあのあそれ秋の山される
　　多能流のうく学をくあるとくいつれかまさるくや

せて作りたれば

大納言為光

わすれにしつまとても哀とやおもふらん涙にくもる月ハ
そらなれたりけり

白房ふうしうまとといふものれて寒の下紫のまつもとうん
とうん

小男鹿のもとくるんふする姫義ハ下ゆやとよあるかてんん
姫義ハまつさとそえうり移ゆと思のうといふさうん

又とうん

ふ年ある松の下ちゆのをつくハたうちうとかけてうとを
とうん

松ちゆとふ年の姫ふ迄くれハあひのうちをとうり
まとうん

白妙のあるき月とふ和のい移ゆとあうといふうん
とうん

ひうとうひとうさたうるゆあれハあるハいとゆハさうん
又とうん

新とれとひうあうさとも衣ゆふをあとうとうとうん
とうん

むとをむのうふ毛ふ人ふとてをとれハあるとゆふ
又とうん

うるひるの数ハとうにあまうゆとあるを七月といひうゆん
とうん

修徳

[illegible]

新合のあとをしたうてよ　　[illegible]

[illegible]の波や絶とふるとんうきなかのつるのうきなかのうきなかれと
　　[illegible]

芦分舟　　[illegible]

絶あくてあるき和者ひとおもひまうりまくてうきあとうきあ
あるくものうきうりもくるる

　　をれのうきこと

いつてとえもいちうの結ひ松ちうきとうきうきへき
　　[illegible]

[illegible]川の山のこそに住んにあるかぶきうり

健中法師仏名のあしまそ[illegible]りいて住うしに　　深草[illegible]

いいたうへ[illegible]

山あるくあ住うあまうに出まんのあしひとくもあるるか

返し

山ものあしかかくてんうこ[illegible]今[illegible]の国う庵[illegible]

屏風に法師の舟ここのとてうるる出うるか

　　右大将[illegible]細母

[illegible]うう法師のあまの舟おうう者とおのりたくてもあるき出るか

内うう人の家に住うるる桜とあしもあるひうるに学

のきくひて住うれを家のあるしの女まかくうくせき

世住うる

動かれさいうもかくて学の者ひとうきうこうへん

かくそうせさせられおりてあるさまにて
あるあるはせさやうに伐るなる法師のまさうはらの
かて伐るるまさられの肉よりもとおりてとるひ
伐るれを　　寄る法師
いかおとこ家は袖のめれとうは拙おりとうと人をそそれ
月さらん伐りて　　よしのゝ
樟ちはうるうるあるるのもといそ月のちしていらん
かえ義は伐りて伐るおりるのうん伐そいるは家
られるいとうくるそきくいひをそせて伐られも
　　いせ
あるめそうあるみさしの川のあ流しやあしられの家えそ
鮮家は車のもとういはうりて伐るるあ伐

きとはしてるるいとあるるいかるるもおりとうあるえし
　　　

雅俗とりくしてある女のまうたりうろうろ
もくくしくはうろうろとのはあるとうてあやしきさまは
うまりてたうまあひて行くうるはりけあくて年ろろ
えあくろりはうろうとあるふひつうしたりうれそ
あくろのようこはくろ
ちえうくてはりうろとおりふうもくくしくはの浦ろはくろ
かくし
あかしようんとてうのうんはのうんはたうのあたそのはうはもみうぬ
いせのこうやとふうこうまりたりうろうこのあくなりま
くろうかくくくくくうろ俗とふちつかりまうん
けいうあの女はのかくこはたうりうれくはあとか

あうのかのかくうとうあうこあやしきはうのけいてんの文の文
ちうくはうくかちくたうくとうんて　　はうのはうくうくうも他のめくこうり

茅原の雅女

みうを川海ろうくくもあうくりりはは文とあうくてかくうん
くうの秋むまりのにくくれて行くくはおまうこの浪の
まを巻の巻はうりて行くくうくうくうくうくひくくうくいひうら
りり行くくれを

かくしあうくまの秋は蛙しくくれはくくうくはうはの行りくくまり
深くうくくう母のくくはのくくはのくはうはのあうア
ようくうのありていうくくうはは行りてくくはは文あくてのア
くはのくくくいくて行くくれはくくはくくの女のくくはくくう

おやの親とゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝとひてすゝ[illegible]

たゝしゝ　人まろ

ゝゝゝゝ名ゝかゝれゝ滅せず系後[illegible]

[illegible]ゝゝ

名のゝゝてゝゝゝゝ

たいしゝ

ゆるす

ゆるす

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]けさとりおいてゆくて仕て

[illegible]

[illegible]のやりやちくんとうしの山[illegible]ちるる人
大隅やさ[illegible]しまの山伏ら[illegible]仕ると[illegible]のつきさ
かしら白ぶさ[illegible]の仕ると[illegible]ぶ[illegible]かんくんとし仕ると
とぶおさ[illegible]のよし仕ると
老はて[illegible]の山といふてけし志と[illegible]ひ[illegible]ると
このこ[illegible]てゆ[illegible]れ仕り[illegible]ると
ゆ[illegible]れ[illegible]ると

旋頭哥

[illegible]て後[illegible]度ある新よ向ひ[illegible]て[illegible]ると時に[illegible]ぬ[illegible]
あかん仕[illegible]れ

[illegible]ん後[illegible]かと[illegible]妹[illegible]あいん[illegible]もむの後[illegible]ると後の
去[illegible]

かの[illegible]に[illegible]まと[illegible]おのこと[illegible]ぶと[illegible]そ[illegible]つも[illegible]ら[illegible]ん
みや[illegible]せん

女のか[illegible]ほと[illegible]ひ[illegible]こと[illegible]れ[illegible]ふ
添[illegible]

[illegible]ん[illegible]て[illegible]と[illegible]ん
と[illegible]ける

長哥

よしの〻天の川たてまつる　人まろ

ちはやぶる我おほきみの御代さかえ天の下なる
世々の禁とゝうらいはるゝと屋戸川のほとりなる高し
みこゝは　とよしの〻ふのたれさゝりあきつのゝ
えはけらゆゝしきかもてりもゝふ大やゝ人ゝ
舟ゝ屋あさ川ゝゝりぬふくゝ夕川ゝゝ
この川のゝゝゝゝゝゝゝのやまのいやるかゝし
たまゝつのゝゝきつの天ゝゝれとあゝゝを

反哥

ゝれとあゝゝゝ川の流ても絶ゝ時あゝ約ゆゝ見

あゝむ乃ゝ山ゝゝゝゝゝゝゝ

くれあるにたくゆめかひありてひなうくん
人はかり後かひもあるとはこゝろの世さはかくる
きゝけえの れいはいさはく老めれとみるのこゝろも
ぬきすてんまゝはいつとゝもたゝ陸のあゝちまいく
ゆくうちひゆもとりの海をありこゝろ舟のこゝれと
定もたゝあれいまこたまちゝとあまのうらかへ
うちなくてひくゝゆをぬはあるこゝ

かゝ

世中とおもへくゝうゝまるれとえもこゝれも
くれもみるおあゝみゝムのれう枝ゝかくるあく
きてくきのちもハよそもはくんとくゝ紀れと
うれぬのあくうれあやめくさひやあさ月は

人なゝかうゝうゝとりひはゝよにかゆもゝ
きみはゝもあはゝりはゝゝあれいまゝ草のわくゝを
あつめはゝひりさやけきひさかゝ乃月のうゝと
れまてれ時あゝうれわちあゝめれあゝうん独の
ゝうみゝうゝあせゝくまいまゝありかつゝをより
くれかおれ秋ひくそんれ秋ゝあくゝまひゝけあん
ひゝりもあゝくれゝけとあゝれん物ゝゝて見
ちやゝくのくゝちひけゝあゝうもかく世ゝゝもおも
あゝあの西の移ゝ西くゝもうゝはく秋あゝと人の
みゝまりておもひくゝよりゝゝまゝゝ
ゝゝあつのゝきれはゝみきゝ人あゝくゝ
秋もあゝくゝ

あるときとある物のひろる女のもとのひてこけ侍て
そこなはりてせうとこして侍るるまあくこの
よるんへしること
いまとともいとさとしうとやとくくあのえやうすれ
ふるちとまかりやるとあるちやう侍りるこて
乃々〇乃きのよろもこさくくひえ糸ハむありき
むはさとかくてもあく強ひ毛くはてやる風の
くまりうに法ようさかるのちとりうくみハふく
みつしはふ袖のこいくく ぬれはくそ袖もおもてぬ
きみよりかひあぢの高は何のしうと糸のこひとり
うきふのくうれてよにハうとくくんとくけてハ
うやりひりくゆうもつるもつきあくくありひあるた

かくうれもあるうなれかのくくもくるのあるくく
あくくくれくちきりしてハうくれもまるれうくう
ちりあくくくれもうくあるうやうひうり侍るの
身ふあれハおもりいいそくくこと乃 花のるろよ
好もたくおりまくりよ侍のくく乃 さしのひまう
祿とむとひせくくへ侍るも志ふもをの ぬるくあれぬ
たくくあうちあん
春歌清浄院きるくれ侍て後ひくくまりくて
くくせをを侍るる
東三条右大臣
あくくれくれいはくのくくやひくくるはをあるぬ
身とかりておるいくくハかけまくもかくこくれも
くのもくきかけるふくくひおくくれくるふくくの花と

ぬくうせ乃あくたうさうハあそこ〳〵せうさ枝を
あをさ法〳〵ちうもとくしとうとと
たれうこんとおもふそうなおあるけあくかくうそとへ
さこうこうて　ゑさてまたのこやひとく　ちうそ　ぬちく
いうこうう　ちけなかけとうこうまれこ　さこのせうこと
ちうしいう〳〵うこのかうこのそれあうかいつちさこもと
こうこ　たれあうさ小山田城人こまうせて
ゑハ山さう〳〵たうとうこのよ　ゑうとかて　ゑうまこまこ
まくこ法〳〵うこ枝ゑこのあさ雲乃こうこたこも
とふひこうとみひのこまもようこさ法ようさうかうぬと
こうここうこ　ゑとうこうこハあうひこうき　命あこうこ
うのうこハんうとこ〳〵あうこ　ちなあうこうあうひこうあ

山川のこふちもあひ人もこうこふこよ
まうあけてあむこうこうこうこはこうこあうこれ
神世月こうこ　ゆかりこうこうこれてこうこうあうこも
ちこうこうあうこうこうこうこうこうこうこうこ三月こ
ちうこうこうあうこうこうあうこうこうこうこうこ乃ふこうこうこ
ゆくこ〳〵ちうこうこうこうこうこうこうこうこ
あここうこうこうこうこうこうこうこうこうこ人こ
枝むこうこいまこうこれこう枝ハあここ大京の命の
つうこうこれつこうこうこうこうこうこうこうこうこ
いうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこ公のむこうこれ本まこくこうこうこ
年乃内こまこうこうこうこうこうこうこうこうこ

とけとぶらちん
これらは返さいあるものとわかせてまてる
くれて又帝返し
いうもせん系みくれるいあるものをそしけるの
金ゝ

拾はさわらの系出て分第十
神系分
掛はまゆうてかけてたら世まる神のみまよいまひろはけん
ちらまさのうとかくいうまさめられはやうちんうまもおを行り
ゝてくゝはうとふはあゝ沢あるまれてをひめるのみてゝ
みてくゝ沢やゝ迷まのとをゝ神のみそまさゝれておつさはやゝを
ひうさをとけさくゝれはふんのちゝせつけゝてきれゝ枝あり
よもふのんのさゝとともうゝを神のみまゝまゝるやそまのれ
いうれくゝふるやおゝめのたちもうおくゝあゝとをてゝ文行ゝを
銀のめあさの右カとさけをゝてあゝれ和と稲ゝはたゝまう
我弱はゝやゝゆうあゝ天ゝたゝ文され器のむさゝのうゝ分
さはゝをゝ衣はをうん為ゝれと稲はうさゝうくゝあては

[illegible]

住吉のきしもせにたちのゆくすゑ詠さぶ

ある人のいとく住吉の御神のさくせんとて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かくとてそのうちに武さしてゆくすゑ

[illegible]

住吉まうして

安法法師

あきくるはいくたびのあひあひとかはしつ住吉の松

[illegible]

つとに御代のことほぎもあらんと住吉の松

[illegible]

住吉の御神の社の松のゆ年のひさしかるべく

原忠岳

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人まろ

ちとせまつ神のうしてる今さとたれをさめにうあくとちん
ものよ振神もりしのあれハこうそてふのしもとあらめ
安和元年大嘗会風俗あらしゑ

大中臣能宣

きらん代のかくれしのうしのとのみさ中のあるはそうる
ちくあらのあらしのあらしてたのうるなきらん代ハ代ハ
いそらくしゑ　よろんくしらを
ここあるさ思ふ思ふ代とをしひをつちとうつ
みうらの山　よしの
ちくやのみくらの山の柳ハさうをはるうの世うさ

よろんくしらを
ちくあらのみのしのあるあり久り
ものとをけ
よろの閑とうるの山のしくこやをの川ものうあひを久る
おほくらあ　よしの
みつきたむおほくらハとをたうそうもかくうをを代や人ん
こおしゑ　よろんくしらを
たうをますやくをの中ゑを海をてたうかをよみ世の
かくこゑ　よしの
みうをよくうしもしかくんやうの思ものあるを世をあるのさ
松う海　清原元輔
ちとをあるを松をををハもれわつくうさあるんあるし

おりのくさ
とてこそる時のあしちあのくさ
天禄元年去嵐舎風俗通世雑記
ちくさよりの年のふかあさこの君の時代とうあつ
いやさのふ
あのこちらいやたらふの梯子そ思ふ世とハ新うきん
こうみのふ
ゆくるこうみのふのうあれハ年のうけうあくてへん
いそくこうなま
くわうの宮倉ようの代とうこたくのこつまんとう
くこふ
年代とあきらけくえんかこふみ年のかとハちりはし
ありくこのさく
年もよしこうひもそうたぼのさくこうのあ
こ田のさく
名さそくこのさくの杖あれふくもつきこ君うの代
いつこ川
泉川のこけきみの底こうれいとくこハ新うきこ塔うく
松のさ紀
雲のこむ松の塔こいあこくこうふ代のこうしとこ
延喜元年八月廿日の民アハ法世元六十賀申納
去恒佐妻こ行りくの時の屏風ふかくらこうふ
のこうさ

[illegible]の山の梢をおとぶらふ神のきこゆる　人まろ

旅にてよろこび作りける

おほぶねもこぎかへる神の作れりしいのふねとこそ聞き

延喜廿年亭子院の[illegible]ふ仕奉るとき

宮廿一首ときこしめしてよめる　菅原道真

名にしおはばあふのうらとの神ぞとこれしる恋のさきやら

拾遺和歌集卷第十

恋一

天暦御時歌合ふ　壬生忠見

恋をしてまがふ人をもれぬとこそ思ひそめしか　平兼盛

思ひそめてものをもいはじ我恋は物やおもふと人のとはまで

もしらじ　えやいはじ

ものおもふと人のとはまでは思ひそめてしかりけり

女のもとにまかりあてにてよみける　平定城

思ひつつ経るものとのみ知りぬれば今はかぎりの君にあるかな

たいしらず　よみ人しらず

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みるかの湯のそうまゝ
かとのあるまゝ
ふるくけれハはるかなるこゝ
つゝみぞ
けさ〳〵ゆくるる女のさゝ
ハたゝすゝ
ゆきあハたゝ軒のはるめる
花
はるさにこゝろんせる
たい〳〵
人ゝきあんのうちとんせさ
ゆのりゝふりゝ
ゆきれ
ゆるれ
ゆるれ
ゆる

[illegible]

よろづよ

あるかぎりとはいつもたてまつらんとそのかたのかぎりなき
命とはあだにあるとらしらしとをやまのあらめまあらんと
つゝむらん

[illegible]

いまこそはをとるもやはるかにかぎりなく
をしかんはなのちんいきまる月のくもりなくはれ

大伴百世

源純基

[illegible]

よろづよ

いれかるる
人もれとありてんとときめはいくもひまもなとこそ
たいしよう

[illegible]

ちきりをとゝみくんる安まつうりうる

藤原輔昭

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人まろ

[illegible]

よるとしたりの

[illegible]

[illegible]

よるみ人しらず

[illegible]

人まろ

[illegible]

よるん人しらず

[illegible]

人九

[illegible]

よるん人しらず

あらたまるや我名ばかりて角枕のうもれ
かくれぬるかなのふれるくまもつきの
ひかりにはかくるるなりけり
源さうく
深川はかくるるほどのそれなれども今はうしろ
よりぞ人しるべき
こくうりいたいひしこのかうるをんなつきもの
女のかたちにつうりくく
男うかのうたうるれるかりせいおやうにあてこしや
よりぞ人をうしろ
たいしくと
愛うとおりあくれ紙やせーいのうんかうとれるこかは
いをまあんをあんまあひくとかはんをの後はもり
特事物語歌

あまたのほのかくうれいむうしのとおりたり
ほとうれのり
あまたんくふくもやうとおりしと名詞くとうとうれば
よみ人しらず
あまもみてもみるはれとしつのうたうなるくんん
家長おれてあまもみてもあくさうれ浦浪のうんぬるうて
こうれて女のうたうまうりてのうたうりくる
よしのの
はるのあまを待月はの秋よりもなをのをうとりれ
秋ちくくと
つくの四郎
ひのくさのあくくしらふたくあのうたとうとおもせま
あまうくてもれあくさうあんかんぬ紙てう家のさしへや

人まろ

むさむさとしかぬるかぬるかなとかたらふこゑ
よろこんでしるし
牡鹿一時はまれにそのねもはれまさるもの弱
苔衣やかやくあの柏ゆりぬ紅ところ思へ
ひ泊あの男のもとうるしめてまうてあること
朔日ごろ病ひきるるのきるるのしるのなるもしるも
平紅時
ひ泊のひんりはたいの男ふまりかしひて紅よ
大弼ところのけ
ぬるるるるんの男よをつると又紅ものあくるやおそ
紅ーーーと
よみのしるし

いはかとそとと紅とのたられバくれ
女のうしろまうりやをれて
日はそちは物とるくしおもふがろ
たいーーーと
もくかをおるくはるとくひのさうひしとくと
大江為基
ゆるるめるとろくそもると
つくゆさ
よるくくくして
沢もるるもくくよしあくくそるる紅ろり嬢しくふ
ひのうとのるおきの乃とおもひひられ紅見られかくほ
男ものるるくくの物るるくの柏くんとくくいやハ稀くくあく
女よ物いひくくめてちりくるる紅ろくくまるくくひつ
ろくくくる
五条紫式部
ものらてもるはし物とるくくそのひとくもるれハまるる我ものる

女ごのたうしけり　よしのふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天暦帝ともかの合よ　みつね

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひさしくありてひとも住吉の松やふるひおひうるこん

ある男の松を詠ひてつくりてたりける

よろづ人まつこと

何をそよ詠ひ初めし世代の松ひとりのこりるく

歌しらくて

片男の松のこゝろを思ひ入れる歌なり

人まろ

あるこゝろ八ゆゑ久さしもいのちのかぎりあるを

年月のことおもひあるを

歌よこてあるのひとてあるれ月日のこゝろ嫌ーうるれ

枝枝ちてあるけう枝まのあらこゝろ詠ひうおせんとうこゝろ詠ん

ようみんしらて

とあるあるしあるしつくせんのいてゆりしかるの歌なり

あるこゝろ

思ひ出てけさしく行りうる女のりこゝろけ

里

あるれ行のこゝろ孫まあるれ出るいてあるあるの人のあるみさい

歌しらくて

よろづ人しらて

風をこゝろ行出よりもいてあるこゝろ行れる

志の行のまつるまるいさりの人の歌ようる嫌とこゝろ

意をこゝろ嫌ちあるこゝろ我身まこゝろ人とあさいや

ちるの思ちこゝろ思ふまつこゝろ人あるくこゝろのこゝろと

けさしこゝろ行りうる女のこゝろ月こゝろ日ありうれて

こゝろひあくあるひこゝろてあいひ行りうるこゝろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たゝ――――と　　よみひ――――と

ひこしの山ふもとをけとさよ今秋もまさる我ひとり孫ん
人もまろ

あ――――りの山をのかのちてうかのあ――――りくし――――秋とひ――――りん
よろん人――――の

あ――――ゝ――――ゝ――――ゝ

たいしゝと

ひのくまのふかくいりぬるかとみるまでにみつの月のさやけさかな　人まろ

みつの月のさやけさかなれとくもかくれぬるかとみるまでに　よろこび人しゝと

きてのかくれぬる月の光かくれなくはるけかくれぬるかとみるまでに　人まろ

姫のよの月をまちかねたりしかとうちなきぬ

家集　流清殿屏風八月十五夜月のかけ

うつりきてあるはおとこ女あそびけさしてしらぬ　平忠盛

秋のよの月をまちかねたりしかとうちなきぬ　君ハイ

月のあらはれぬるかなのもとにてやあはれ

ほとゝきすあらんよのさとにもあらはしの月とまちみるかな　中務

さやけさをみるかの月と我ならぬ人こそうらめ

ひさかたのあまてる月かくれ行はよるくてまとまのほ

糸ゝおもひくとをとをてくるかとまりてる

みちの月のあるありけるかな　よしゝ人ちゝて

ちるそてのかくれぬ月のかけとあくさあまてもはとけ

たいしゝと　つゝ

てる月も新あ底ゝてるかりしるかな

月をうんでたかくなるおとこ

あるひ雲いうある雲の月をうんでなる中宴由伝

歌しるしること

月をけとあるあるかつら地あるとものあるあ人と衣よやうん

いろ宗算和せる命　さ、月ま

ひとりあるあれこ八月のみをこ八月のあるこ人ろ

歌しるしること

長月のみ月の月の者つ月の者つ月のあり人まる

月のあるこ秋人をまち伝て

あるあ八やこてあ八ほ秋のよのあるあ月ひの人をあるる

たるしること

あるこ中二あ月八ひをかるこ

よるあ人しるこ

あるあ秋よるあ人をつ月とあるこ六秋あくこ明るあ月ひ

いまるこるこいひ伝るる女乃るふつるりるる

月あるこ今八間しこあるひつめるるるるる

歌しること

ふるまて秋さるりる人和まる秋のあるあるる

むこむの時るまるみこるいるるるるるるるる

秋せるあるるるて秋るるよ八ひるるかるの秋さるる

いるあるる時るれ竹の一よるにるるるる

いるるのんれるみまるれるのよる八るるる人は者るん

人まろ

まことにやうのちまことゆめのうちにはさたとよ時よ色
の色をふくらまもうくいりおよびさきにんえをつ強くさと
美をしこいりてかををよえて　びをさやるこのおくさあません
うつくしは色をこのかをしむのとのるハ弱をれい変をんてたん
ひろをこのこやをとをのひをこうゆまるをくをりける
ゆめをあんをこのやうをて内ををあひをうもひつると
人のいひ伝をとををて
いをすををひをそをこのこもりをうをこををのをををとをあるをまや
延喜十五年御屏風歌
はるあをる

ゆめ時あをれいををの田をあんをもくをうを人のをををを

紀ーーーー
あつさをるををのをのををおかくーおをひやをほこ今をあをを
ここつを

かの色を哉をるおのををふををを

我せこと[illegible]の山と[illegible]人

[illegible]せとあしの[illegible]のようにふる[illegible]

[illegible]人[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

我せこと紙をとれば紙やこの苔をこそ見ひらかれこゝろ
こゝ文ゝ家の家合よ　　よろこんこゝ
あれのよこ海松をのあき浦とけもも和とかり浦ぶ
うゝて五十はよあり　　ゝゝ女のこゝまゝりて雪
のふり侍れと　　源宗明
みゝふゝ雪ゝゝれゝ人ゝふゝゝゝて行ゝゝあゝ
見しゝと　　人ゝ侍
雪あつゝゝあ歌あきゝよあり　　めれゝゝ見ゝゝ行ゝ侍れ

恋四

たいゝゝと　　人ゝろ
釣れ松浦なる我はけつゝとゝゝゝゝゝゝ人乃手枕ふれてものと
え浦ゝひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　　源宗于朝臣
時のまゝ仏ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

いろとそろふとそろさんとそろ
　　　

[illegible]

[illegible]

右を　少わかき遊女

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かつらをかけるあれ行あの面をかく敷あるぬるとい[illegible]

よろん人々しくて

小男鹿の角をひちの山の[illegible]

[illegible]

行あの池あるとあるとあるとあ

たゝちひの祝のうたのまゝ

人まろ

いさゝかなるこゝろもてこゝろあくまこゝろやうんいを祝ふれ

たゝちひの祝のいさめこゝろ祝ふ時のことこゝろあるる

とりとてさゝひあちこの祝ふまうてさゝりられハ屋

こゝ十くて祝ふこゝろ祝りうるふいろこゝろん

中務

うちとけくあれまるまほこゝろのこれ年月と思ふそ和ん

たゝ一くこと

はゝあるる

うゝひるうりとたゝてゝ和ふのいまくるんとあるひあさほん

ちるひいくこと

ゝ花のもとの風もきこゝろさ人ハ和ゝの花ゝ

ゝ風ふまよちてハくひこゝろいゝゝのゝん人乃ち祝ふ

ゝゝ世ふまとゝあもあ人の弱ちあつけこゝひるひゝのこゝろ

あこゝのけかこゝひちこゝ人ちのこけこゝまりるのゝまりるふ

みちのこけあこゝのふのちこゝまゝ弓んこゝこゝもみあるこゝまりか

いせ

年月の祝んかこゝもあるあくこゝ秋のこゝ人のこゝあれと

あるひこゝやあひこゝぬやの年月こゝかこゝあこゝりふあこゝんあこゝと

こゝろあるか祝こゝりこゝこゝろふこゝりこゝて人のこゝ和ゝ花ゝ

ちこゝこゝ和こゝこゝりこゝて人ゝとあこゝの祝て

源頼基

ゆとりなるうへにとくるうふもなりてうたれ我ことうさくきまうとうれ
ゆとりとうりてよみたりうりくん　人まうう
よりうこまりてうをもれうるうをうるゆゑ水ゆとりなる
歌　しくうと　よりて人しくうと
あるゆるうたのまゑ弱ゆあくうをうるいたくうたるうたるもとのれいあくけ
入たゆゆゆまうりうちうるふ門をおてくゆゆれハ立ゆう
うひぬとうひ入てゆうれハ　右ちれうゆ御母
あけうつひうりめうるゆゆうるゆゆうるふひうさうゆとうハしる
歌　しくうと　よりて入しくうと
歌うるうるうるのうえのゆうくしくうるうけうるゆ
おこるひせんうとうふうるうりゆうるうるゆ里の人うしる
けりる

人みくくうちくくうとうくくうるうるうさくうるうるうるうれ
くうりうちゆうとうりくうるうりうる　まうりうさうて板後とうく
はうゆううてうるうるつきてくうりくうる
新結てゆうるうるゆうるゆうるゆ後ゆうるゆうるゆ
歌　しくうす　よりて人しくうと
うひゆうる人くうるうれハゆうす後うるゆまうる新とうるものうて
系油のゆうくうと人の皆とハれうくうるうれうくゆうるものと
え良のみうくうはの金ゆゆうひ結りうるゆ時女の
いひうりうる
数うくくゆ系ハうくうくうゆゆうるゆうるゆ後
歌　しくうと　よりて人しくうす
うるうるうる人のうゆうなくうるうるゆ後ゆうるゆうるゆ人のうゆうなくうるうるゆ後ゆうるゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みくんとありしひとかのめ世中ハ常りくうをとう歌さうり
何とありふれうくふとけくよさうなこてしとう我ハうのまん
世中のくもくもくも

おいひ行くる女の法さうにかくれさせたまひ
ぬるを
一条摂政
ひとりもつくさんあのわすれてあのいとうまめめくさ
たいーーーと　いせ
さるとうかあひえんるめかさうめるふるさとにいとのなき
　　藤原有時
あまるれ袖のうしとをるめれいひうれ袖のうるひとうあ
　　ゆーーあるる
大きのあるあひるのうきかまうこの世ともはつるふ
　　人まろ
あるるのかるやのさるはよ匠かるあと我とうれ袖ハあるる
袖ゝ袖のかう彩袖のかりんれ袖ハるりーいいるあるも

るるるるあるれ川のさるるるるるるるるるるるるるるるるる
我るるやあれ中るるあるるるるるるるるるるるるるるるる
　　ゆーーあるる
袖あるるるれめ我袖のるれるるるるるるるるるるるるるる
　　よるるる人ーーと
るれるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
思るるる我るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
ゆるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
　　女のるーーるまるるるけるるるるるるるるるるるるるる
　　源宗明
風るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

歌しるさる

ようえん人ちかえ

[illegible]とをやらぬをなるとみよ
我ことくなりよ人ハいまよりへも今約束もあしとそうらふ

坂上の郎女

[illegible]
[illegible]
[illegible]

かくてあくまでもひとりぬけてゆくものの人とあくまでもつれかの
者ども海の国に帰りぬ　ちよせそなる玉男ぶ
海ちゑれ人よいとえいとんかさ恨ろ深きんひとりの
くるみぬもくかくりくろあるあるれむんのおきてくぶ
ひのかもかあ出のそそ此あ出てくるやせほしんのんと
ちさこ海の深きんみあ恨られめるものこみるる
物あ者ぬんくあるひちぬ恨さろくく
恨ての深さ人のけくかくいうよひてう称とるおほ
小船を文おいまうちきみよつらうる
恵と物恨つるあまあるるをひも母出の名とられ
ぬんくと

あるのくるれ後出のみいうけたくつるれつくきろ
恵ろぬ物ひさもあ者さめんるまあ子の清道めん
かくいうしくあ恵ろさいるくんふるあるる
人さろ
心くあるくく物ぬ品いとひくたくるをこ海の品一をちふ
左大臣女侍ら世後りよくれいちくもくのりくみ
にうりくる　文暦沖紙
いるくくとにくぬきくくとやくくれのやくくめるもみつ泪ぬ
女のくくんつうりくる　平忠依
意とハんるもあて後ぬくやハ物くくを文意とくくと意と
歌くくく　ちくんくくと
ちくるくくいくくハ気も志物人くちくくふんくとるくくて

雜春

凡河内躬恒

春立てゝ今一年の春ぞ経ぬる
ちとせ人もとめてし

春立てゝ幾日もあらぬに鶯の
ねぐらの梅をさがしてぞ聞く

小式部内侍

年月の行くかたをだに知らぬ
間に春の来ぬるものとこそ聞く

右近

延喜十六年亭子院屏風歌

紀貫之

春ごとに流るゝ水のうちなれや
ゆきとけてとも花のありかな

正月ついたちの日のけしきなどの
たゆまぬ御代のためしにぞ
中納言具平親王
あらたまるとしのはじめのうめの花
あかぬにほひをかぜぞ
源大納言
ふるさとの春の梅をたれかまた
ひとりぬしの
よろこぶ人
梅ひとりぬしの
中納言安倍廣庭
いとせめてこのうめの花
天暦御時内裏の
一条摂政
むかしの人はあるべしとも
おなじ時梅むめのもとにて
まつ
源兼信朝臣
内裏の
桂内侍
清和の七の
はるかぜ

かゝるれとおもひつゝなさと我やゝの梅こゝろまこの歌と知りめ
たい〳〵しくて　　よしみんまこと
年毎に咲ハかりれと梅花あそれあるゝまハうせまこと
　　宗甘　蝶流古村三人共屏風十二枚内の中ニ
　　保順
梅ゝえとかりうさて初人やゝとあまこの歌ハえあれうを
小西河の山ゝをさむのおりゝ紅く咲て行ゝとゝ人ゝ
まうてゝさうゝれハ　　太無藏ゝ任
まゝさて万人もゝひゝれゝさゝハもゝこゝろ和のゝゝうゝ分れ
ゝゝ海ゝまうて行ゝゝ　　ありまゝとふゝたゝくゝよゝん
行ゝゝゝ　　安流ゝ師
おはつゝかゝゝ西の山のゝたゝて海の中ゝまゝふけゝゝ和

延宝中の年新流屏風の歌をかゝて山ちゝゝ
人あゝて　　ゝゝの浦ゝゝゝ
初ゝゝゝのゝて山ゝゝゝゝゝ屏風ゝゝ海ゝゝゝゝゝゝ
小ゝゝのおゝゝまゝゝゝゝの歌の海ゝゝ
　　よしの
田ゝの浦ゝ歌の浦ゝゝゝゝゝゝ

世のもとまつぶのひとつけてたうりくる
義家朝臣

雲とうけてこ酒れそつるかゝあつをなつさハあくれわりき君ハ
東こ家陸奥て十九日のうちよりよ日いてきこうけるよ
この君といひけるこ人のうしこたうりける

後こうの松ともひうをこうひとの初まをかひるをこうふまみ弘
子日　　惠茂法師

ひとそそこうこ子日の松ハ狂なるをとうてこうれうこ世ふうみこん
たいしゝこと　　よみ人しらず
ちあてこうこ子日のまとこうてこあ松とてこあく仰うこ引へさ
新院子日　　ちこうよ

一ぜの松のちとせもひこう狂ふつよのえうりあひやこうく
たちれ安資下蔵こ侍けるれ子日しくるよ
はるの元博
老の世まかうこ四さハあこうやこと本うこ家の家の松こハくや
正月叙位のこうこあるふ子よ人くくまうりあひて
子日のあうよんこいひて仰うるよ侍よ仰う
けるれ　　大中臣能宣
松かゝこ引人今ハあり春まし神のみうりそかひ弥
除目のこうこ子日まあこうて侍ふ桜ふ文衣のつ
かひより松こうふてこあを出して仰うるよ
　　りこすけ
引人もあこやこうあうみこうの松ハ子日とようこ侍け

康和二年[illegible]人[illegible]ありて屋のうちより民
部丞ようつまて二さひよりとりて[illegible]を命
ぬらるとにつかりける　ちさとうら
引人もありとあるひ[illegible]あつさうの姫さきもつや引ゑ
[illegible]　よるん人[illegible]
[illegible]時[illegible]ありくろ[illegible]ひ[illegible]ありゆる
神のみこ人[illegible]よ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ちとの家居六条とあられと[illegible]の柳[illegible]
[illegible]　弓削[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]て[illegible]
[illegible]

[illegible]　賀茂朝臣師
[illegible]　よるん人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]　よるん人[illegible]
[illegible]
[illegible]

ちくぜん我やとりのこと者とうんけはあれあるこさいありてきき
ちくぜんたちの咲て行くるかもとるは行くるの人の
後のまをかうまの行くるようのむとれてつくりくる
よるん人しくこと

もゝやもゝかしまのこゝろをしてひとうんまくれむこうか
みつ一ゐさあるひくるよ義人ゐのとものこともちくるの
むとつくりしくうくれを　壬生たかうん

伝法まるれおくゝ八ちくるむおもしひやりてやまをとくるけん
あ人のもとまはくうけく

京都寺師伊義

京都ちゝの行あるよちくるむおもしひやりてやまをとくるけん

くるいしくくを
ちとめの見もくるくくしくゝ波のくるもるや我も立海ほ
まを見花山は真子波白とおりはなくて海くゝせくをひ
くれを　信西遍照

まをとゝいくいくもかくくむゝ山まをありくとあるんゐの移ゐ
京都御息ゐくるよまくて行くる時ゐ月のそ
まつくけくゐあまを者くる中ゐ

芳原宏房朝臣

学の月つるあくまを白のくくゝのみ西をとむくを明れ
右さとに深とるゝつちくむてくくくゐ見くくゐ也
まを京くをとゐくくよくをちをくりみちてもゐ西ゐ新人ゐ
京歌流の出村三尺出屏風ゐ新むの本のかをんく

あつまりかさなる雨

かすもり

世間は華しくさ拍ハおりあとそちむとそてさくさくしんおりくり
清性云家とそ沈の初とうの沈とは沈むとよみ侍る
ちとまけ

ちとも沈底あり氣とおもまつめるくのまこおくは
よ縁とうのかりて侍くところ源氏光う家とそ人々
さけさうくけうつめてよ　義家出雲
赤縁の野縁の雲ととかてきてあそれ秋のむとそるかの
清性云の家さかとひよとりひのもとまちくとの
花とおてさて侍くとよそん侍くる　宗盛卿
ひのもとにさかる桜のちみ（なイ）れそくのまとりとそるる

山桜とそん侍りて　平さもひさも
源山本の二塚三塚さりあるとて沈とあるあくみくもけるか
こむくとうち侍くる時よそるや沈侍りくるとそくく
よとみ侍りくる　義家出雲
かくさまくとやくとのこうのそあるみむさくとよる沈て畑やけ
石山のたくのまくと侍りくるちくれ春ま出つけ
侍けり　よみ人しらと
としろめさいそゆんム山さくあるあ白ひと風まうせて
教業武部人のそんるあむまあいせくそこ侍り
けくうちくるとかるとかあこさくたくそ歌と
おくるくそ　けくあ
ひくかんのさまあくちくもかあくさせれ歌ひよ侍り

延喜御時屏風のうつしとて伝ふるものに

源宗忠朝臣

そのかみ花とものそなたにこんあつまりて
ようえんしゅう
新しくことに
ちくもむかしのこのかの新しあれハ
年毎にまたのかるあハせうとも
ちさと

三月ばかり池のほとりにあるかの
三月ばかり年ハたもとにみ侍りけり

菅原輔昭

屏風のうつしにやへさくもかさのひとへやすらの花
屏風のうつしものにまあひくれ

浦人家を網さしたるやの流のむかしをもとめて引こん

延喜御時屏風のうつし

ほくそ

やかれたる網の用いくゆくすゑ流のむかしをもとめて引こん
をすの流糸桂のみやをとをとこまてをすの流
てかけの松のうちせ張ひろるよひけとをよのれく
ちくをとをくうてふをとけと学をひろくてかる
きてふくさせよりける

一条のをとゝ ちくをとをの女

本はまち蔵るもとあのさあをえやをくめぬまのかるみは
ひえのふをとをみ侍りけるは人のをとをあをとをひて侍
けをハ侍りくるまをとをとうをと梅のをのをうり
芦ばかりて侍りる枝をつけてをうけける

如覺法師

[illegible]

右馬頭[illegible]

[illegible]

谷の[illegible]

[illegible]

[illegible]

屏風の歌よ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雜秋

屏風に七月七日

七夕はあまたあるをんなかのいとかくはたりまつるらんとおもふ　源順

あかず離れぬ屏風に七夕まつりしたる和歌のもと

よもすがらそらに　平兼盛

織女のあうあふおもひをしらでやあるらん　ゆきて

七夕後朝をうらやましがる

彦星のあけてあかぬやをとめ七夕の　人まろ

ひのうぬあの夜と云つ

しらしらと

波やたちやあらしやたちぬ君あかぬ　くま

七夕まつりかけうは扇ようせ弱てうう

天暦帝御製

七夕のうらみをそへて天の川てよもひくらりハありやうてはと

ようえ人しらと

よとうとうて赤うを糸ハ七夕の洞のむの弦とかゆんん

天録四年六月廿一日原融院のみてと一和の文

ようとうせ弱てらんこと〳〵せ弱てうるまはけうとさと

七月七日まかの文より内の大こん和まはれる

扇ようれて行くうとを地よりつけて行くう

中務

天川河へをくしき七夕とあるの風と行やうとまし

元輔

まちのあうとの風と為うれてかうとうゆうと後

おもひ出て待扇風七月七日物うしひく女あり

源ちかうあ

ちかのひハあうとやうひとのうと七夕のあうぬるあとひきとあひ

仁和の時屏風に七月七日女の河のあうとうと和

平之文

あうあのおとありうとうてうんめうとちに七夕つうと衣うをよハ

七月七日ゆみ行くう

藤原実方

秋風よ七夕はめうとうんいうとうるる世ゆあいんとうん

寂昭うとうとうとうとうとうとうとうとて七月七日毎

よのう行くうふいひつうう〳〵ひうる

大弐三位

天の川のかなたにうけきさいつるもちゝの舟出さうさ
七夕後朝はまつひとうもとうかよんでとゝせて
作りかるゝ恋ゝよ　はゝ母ぎみ
あひかたてひとゝせもまちあるゝ我ゝまちあるゝ
鄙しゝの　よみ人しらず
むつまじいもせのふとまくらひや秋の夜の三尾ちんん
天暦に屏風よ
ちゝか焼煙ゝあるゝ浦の人めあつめてあまの釣よ　あつまん
三条太政大臣家にて人ゝ
まを作りかるゝまきれもとりのむとりのことゝ　源さねゝ
秋の夜は白ゝ女郎ひとのひよりやあるしかゝん

房のあ秋ゝの女ゝはゝてきさうゝれハ　俊正遍昭
鄙しゝと
秋のゝれひのゝゝうりをてゝ秋ゝはようつゝてゝ
舟器の中ゝよ立る女郎ひとゝきめ人ハあとゝゝ
舟融院の屏風ゝ秋の花とよいろゝのひさぐ
みされゝうれはたゝゝゝ人あり　平うのより
あつゝうひのまゝの恋もわゝ秋ゝ恋ゝ
ゝゝゝあつゝとゝのゝうゝよゝとゝて　はゝ母ぎみ

小倉山のふもとにあるしのへにうゑし秋とをうゑのあさ
紅葉しるとて
とてもさきにさるはうなもとの花の色にそまりけり
よしみつ
ゆうしほのうらにあるむかしの人にうゑ世のもとをもとめん
中つかさのもとにおもしろ中けるに月のあるさかりなる
よしみつ
若菜屏風
九月のつゆにあるさ月うけるあるさかりにあるさ
延喜十九年九月十三日に屏風のうた
敦慶法
百姓の大なかりしに八十路をみるに地すり秋のよの月
八月十五夜のあれのうらにあるさ
ちさと
八月十五夜のおもしやとれる月のうらにけさにあるさて人の孫のよ
はるかなる十かさの屏風に
ちさと
ちさと井の程をもとめやあ坂の関引こゆる中かの弱
たいしらを
孫好忠
出かりの人もかとせあ秋おもしろ秋のくとそえんこ給り
人まろ
屏風にすきて秋をひろしの男あきをみて秋をうた
三百六十そのあ中よ
よしみつ
姫君の屏風に
大なかりそ宮の屏風
ちさと

[illegible]

人まろ

秋風の[illegible]

あらし世の日毎に吹て我宿の[illegible]

[illegible]

[illegible]

菊のうつろひて侍りけるを

よろづ人もろともに

都をいでしときあの菊を見ては

思ひいでくるとて

人まろ

ときもかはらぬものなれど植田をかりてかはらぬものは

屏風のいろのいとはるかなるかな

さとり

とくとくかはらぬ

たちんん

秋とかはらぬ

延喜帝時月次屏風のうち

ちさと

かりてかす山田のいとをかりて作りて侍りける仮家にふくよへぬ

そらへに秋かぜふきうらの作りて侍りける

あぶさ法師

おくふかくとしをへぬれば法師にふる本も今はおもかるまじ

よろづ人もろともに

たいしらく

ひさかたの月とともにあるものをいかなる人かうへそめけん

真子ぬし大井川よりはなを折りてもてあそびて

おりてもおりてもたれかはなをもてあそびてのよりてそせんとやて

小一條大臣 貞信公

小倉山ふもとのあをんあらそ今一しほのみどりまさりけん

たひ人のもみぢのもとにゆくかかる屏風

大中臣能宣

あさとりの音ぬ春の海をさすらん

よろづ人もろともに

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あくあやのちうさあひて伝ふる法師のもとま
はらうしうくう　　うしまま
あはやはまあくうん弥生月ふるくるこの頃れい
天暦伝　はいせうやの集めしうくれいまつ
ととて　　中務力
しくれつふりはやのこゝあくんかきひのつもれとさまうくり
はれそ　　天暦伝　制表
むうくうあくうきやのこゝあくんかの中まこうこうこまうく
花中絵をゝ懐入たゝて後むまうめの新流まやう
おひさうくうくうとうくうの流に伝ふるあひの
もとうく十月ふうくうまつうくう
山紫の花かうくうといふもかれくまとみ人も通

三百六十そくの中より　　つうう神よりたう
除山本とゆかるかうまうまりつめてさきさとうるとの宮殿や
うまやうるれおのまたはまさうそうまとてむうりのやとかれやしあん
そる宮和郎うあくあくのよの月おうしはたる花
はうりて　　うしまくけ
いさかくさうりてんなの月まのむうおくくさうり
みふのはくひまうりいうくうのうくようまうて
うりまとうりにつうりくうとおうしとせうられて
かくうかくくとうられとうりの　　ふくん世尊人をを
をくくふあくうくうくうの人のもうくまうりうりれい
女とうこうつきくまいうきくとうくて出ふうくれい

[illegible]

右大臣殿屏風に

[illegible]

[illegible]

[illegible]

物もみなまちうけて咲そめし桜や松の
花のはこりかくさよりの色めるもとあり
さくら
むさしの国のもうみより五月雨てうみのかけよりはれわたる雲

拾遺和歌集巻第十八

雑賀

延喜二年五月中宮内侍屏風元日　紀貫之

ちのよりとちとちとち

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天暦の時内裏にてあるべきものみこはるるかれば

参議ぬし

百首よみまのあかれるのまいてえつしたる

みつよりはらいさえたりちはやとをしすがめこま

いまさてたかまさのあるかのひもとあこんさんたて

まさ大まさ経母

天徳のころかるかるこるかるまのさ月いつるこれん

天暦

天暦に右兵衛督平[illegible]屏風に

清原[illegible]

ちとせへんこれしいまこそはすてるさのあのあのとうしろやを

ちらるるこれのかえれ右大臣のしかるるかんさちめれ

かいけとりてこのようみかるる

右京つ我さて住

右大臣[illegible]つくるとあるとこ姫しるにあのそんそ

ふこしたくりなのあるとくくくるとあるてとりけりるけん

樹の住[illegible]こしよ歌と

住[illegible]もの赤のんのんのんのるやみきいの松のたと移せて

ある人のかえしかるるよ　桂中納言敦忠

ちとせもるるのるのるとはるるしひさき地い君まるみ

はるのの安七のるんとの八十かえるる月のるんてのしかけ

いんるの屏風に作るるるるるるかさ者

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とふやとうるかも結つるまえの日と
よひとひてうちおかせたのしておかせられうる
天暦御製
さうかけていまけう神のさく咲ぬるり
ちおうこうひてそうしける
志けのぶ小式部内侍
春のあきくれやまつらん
四ときのうつりかはりてけるる秋とうくまて
ときるるかとうしはりくるとさてく
女のいひつりしくれはりくるとさてく
人こうつうこうつ今からのまつよ
兵部卿宗貞

義孝
あふあやしくなりうとおもふ
恋しくとうはようてまたあのつかはるるあとは
よみ人しらず
むの本はまうれたちうくはて人しらぬ
友ふ所あはけるとはてつまとあれ人はなかも
恋とるに備ふ家といふ所とはとうれ物を浄土のなるしあり
清僧とくはとんはて
かくあるり義うあるあるてあ神ぬ次地や仏のあるる
海はたまは恋ふあるあるとまりりけるは
いうてはうるれむうとつけはるる
義孝朝臣

はるかなる人をかくしたる妹の枝ぶりにて一枝わりてさと
おなじかはりてひはらるる所をあつかる枝幸の見て
ほりておわりの天おりーくらくせはらるる
と思ふまはそのみをのとしつらうけり
あやしくもかはれるとさるかとをかとと人をかれて
をのひさるへのしつらふ

幸の枝

かくれるかはるさもえてかとさるくれ
ど月とるてけさしはるる人のつれあくの
はるれていきさくしはるる人のつれあくの
ひさーくとられをはるはしとひはるのち
とんさ紀くもかさひてあくあくりくれと

いひつりけり
人あるとてらさはあくとて世中はるやあるやのゆまりの
かくひるる人のひさくりとをはるれをたる
おとはるとて
君とそていくよへるんとかぬ竹のあるねのおひるる
延喜十七年八月宣旨によりてよみはるる
紀貫之
るぬ今とおさはつくるの月を表とはるるよ
ほつさうくるとみくとくとくと

[illegible]
あつまりこのまろうのありてさわく
ものいひはりくろかしまりけるよ
いうていうこのろうりつこあるといひはりくれて

よろこんしこと

[illegible]
女のりこまつりけるこのつまとひらくやりてを
[illegible]れて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遺和歌集巻第十九

雜恋

題しらず　柿本人丸

乙女子の紐ときかへし夜の衾なれこそ
いとゞよはなれ

題しらず　平兼文

いとゞ山社のかゝるとゝ人ゝそ侍れあさ人をとこゝろとゝろん
題しらず　かきのもとの人丸

ゝゝ海えのむかしのさゝなみとゝ
大中臣能宣

あゝありとゝのゝゝいゝゝ侍むん人のゝとゝ人ゝ

よみ人しらず

さくらばないつちるかとまがふまで
ぬれぬといふきさらんよの人はあり
なりけりとうまれかきさらんはは

紀友則

あふさかのせきもるかねはあけぬ
天のとのとをくなりにけれ

よみ人しらず

そしらぬ
いつくもおなじあめにそのかは
ちりをのかるゝえとそとる人と
いつかもいけるまれをとゝせんは
まさかるゝはりけるはるれはまとまるうと
けるはあをのうきめあるめいさて

小野たかむら

人をもれぬ人はうとくなりにけり
ぬれぬ人はうとくなりにけり

伊勢の家女

ひとあれはこゝろのうちにはなれぬ
かはのくるゝ人もとにはなれ
まてはうるさしのよにたちてはう

右京

李澤女

人をもれるとゝのあとはかはのもりやしらんとはうる
なんとてあとをおもはるゝ女のもりをあきの
そのひてはうるんとあるとのうらひとれて

よろて人をもうさて
はるのはのひとうるをとめはあ
そしらん

こゆるぎのいそたてらつるかひなくなをろそれかをつゝ侍
人のゝ侍るれたゝこのひしゝやゝ侍てめのこの
わとをつうゝけるる
えのひつゝるをうをにうかゝえんゝやゝをゝさをとと
ちゝもうをゝゝ侍るる女せうゝふもちゝゝのひく
かゝひ侍るるゝをゝいゝさゝりをゝてゝさゝれて
ゆゝひてゝりるゝあゝかゝゝてゝうゝるのゝをゝうゝゝて
侍るるゝをゝるゝをゝいひつゝうゝける
えつゝるひゝあゝくゝゝゝてゝおのゝをゝをゝくゝゝるゝをゝ
ゝゝゝゝゝもゝゝるゝ女ゝゝせゝちゝゝけゝゝゝ侍てゝあゝる
ゝゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝ

あゝゝもゝく世ゝゝゝゝかゝゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝ

あやうきもののあるかぎりとなりぬれば
[illegible]
[illegible]の泡のうくこそ消かてに人のあらそひてもえめ
どもかくもつひにあるべきよ池のあの浪さ波さとそれらしるべき
[illegible]
深川と浅草とのいとなみとなりぬれば
かなしき時のあぶの使ひとなりてのあしくまかりて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

人まろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紀ノ阿女ノ[illegible]

ひさかたの雨の降るとそひとりゐてかりそめ
おもふ人のまくらたくらん女のりこに雨ふる夕
れて侍りける　　よみ人しらず
まうてきつるといひ侍りけれ
雨ふりて侍りける所に新の[illegible]
よりて[illegible]
日蝕の時太原太夫より一ふのみこのもとに
侍りける
[illegible]
たいしらの[illegible]

女のもとにふみをとりてはかりける　　そせい法師

ふるさとの[illegible]
[illegible]
[illegible]

あいしらひ

紙こそはにくもいのめるやとのもひとさにもこそ寄ぬ
けむりもなくなる女の思ふまとをのこれるを一条殿
ぬいとこそかくいひつらんとりうれて

よもとの人のこと

ろうそくのかうばしかりしかはれるそもそもよろし
一条殿の下らうにて侍る時に東の屋の女房に侍
らるる女房のひてぬいひけるをよかりしとひと
てけうれて望りしるみそうそあるとひけらしう
けきて

女房侍

ぬれぬるもはとと云ひとりとと耳ふ人ん
歌しらと

よもとの人のこと

はかりもそろ弱のつまつくまとつら思ふ赤ぬかうこと
思ふこれはむとそもの神ろ恨しとつれあるを人と何つろん
延喜御時中宮屏風に侍る　はるあるを
いれとそろ思とこそ三月ふみとしひのふ枝ろろ
いありるまるてけるこしけりあてけるを女のを
人を思て侍れて　花ろ長歌
赤とらいありれ神もつるを人のあとはのこしを
いありのやろを女のをて事付て侍る
よもとの人のこと
滝のあかてをはいありふあぬるのあるを思とをん
えそこのみそろくまるこけりけるを女のをよ
ろををとおこをて侍れて

ちりぬるをわかよたれそつねならむ
うゐのおくやまけふこえてあさきゆめみし
ゑひもせす

ひとりして世をつくさはやまのはのこたへもかしこしかの
こゑ　大江の屏風に

ゆもかるひのはるかすみたる梅のかうくわんはなん
年のとしうつりかはるかの人のよみはるる
散めつらしかりしかとはるかすみてうしきを

拾遺和歌集巻第二十

哀傷

むすめのよはひとしてみの年のまはりくるの
死さりけれのさまをみていとかなしくおもひと
のあらしふにをよみはるる　小野宮太政大臣

ちりぬるのとけかりかりかなしかりけるを　藤原ますのいはる
併しなのこゑのこゑはいくよをかとすらん　藤原ますみ
ものをもやとも昔のうれあるかりかはかりかはかりかは

[illegible]

[illegible]

[illegible]

妻のなくなりて侍りける頃秋風のよきむまうなる
侍りけれ　　大納言
あるひとの秋のよるのをけなる蝶なりとて
中宮かくれ給ての年の秋はなのなる栽を見るの
をりとて風の吹ちらしけるを見給て
秋風にあひくる草葉の露よりも消にしかとは思ふ
事にぞありける　　天暦御製
去年見し秋の月をとなりて又の年の秋月をとなりて
人まろ
朱雀院の御宴十九日の夜の池のおもて
人まろ
池の水にみるかげしるかりしかとよそへしをとは
服ぬぎ侍りて　　藤原深の家の神のまれなる日
菅家をとりて
ふるさとの花のにほひは変らぬ物を
恒徳の服ぬぎ侍りて　　菅原在行朝臣

とりのみちをとれるを時ちかくとて人々衣を脱と
ちてはうとちてはうとちてはうとちあるとむす
ひつけくれる
人々もものちかとかむおそやくを長深の衣をぬ
ぬるめをとれてちのけくにはうとれる
大江為基
荷秋あひくれとしとあるひせをれかりてあくさあて
年ふれというあるを人をとふりておあるかを人をかりをん
凱しくをも
よろみをんしの
ををををのをををの秋のををををををん
拳以貞義人臣従五位下左少将兼丹波守従四位上
有とおかを長文於亮廿天延二年九月十七日同日

卒後ほどのかをふりをもあくありてのち
あ海というあるひのまの月をれををををををををををを
ひとりをををををををををを

はるのあくるまつかぜ

はるのもりのうぐいすよりあるひとの社にぬれそ
よりとられてよみはべりける　　ゆかりもり

あしはべりのあるのよどのあしをとりておほ[illegible]
ちぬるを朝光らむまめの女房まうかれてまろ[illegible]
とりてはべりつくりとひとりとせてはべりける[illegible]
ろゆちきけるあくるまではべりける

　　花原共の[illegible]

我のみやひとの花をとおもへども思ひあけくとはなかの[illegible]

　　花

うき世にはあるかなしとおもふにあさのこゑをふるんちをれ
[illegible]すりけるみるのあくるまでまして又のとし
　　いせ
あるてとおもてきつんこれてきうんのうかくなん
いせうりとよひるのとそひとつふれてそ
　　平よしの文
おりよりひとおろうをあるめれんてひそんとのそうろう
中納言の浦めちくるのてはべりそうろうにちて
とよはべりおもうりておいひはべりつわてよ
　　はるあり
ちるるるおとはれをはあるうんのおやいとをくちうん
めるくちりてはるるるもあくるりうるうんを
そひとうりうりそうろうれい　よみんちうそ

いふせんこのこのまつに俤ぬかるみとはたまさにたつけ
みあさりわたるこのしらいまきまるりかくれいまさて
ひとりハ秋ちくあるるとこのとりひてね
るれて
すてハもれかおのをてはおてたちかるるこのかはは
ひとりのこるれたて　中務
とろくれてあるしのるむ秋もみいるかはえとるあるんん
むまとくれたりて
はるあるしはるのはるあるりて浦ひとふのあのあ
ふ
世のとかくいひて思ふくハふるあるんとすんん
とひつのるめあくるりてほるるみねるる

さらはるはたのてとるまるは川をのたとれかあ
さあるのさしのもあるまていそやのるりて
あくるのるるんとえて
あるふはるるのあるのもるこの花とまるてあれる秋
純友刈あまりにるるよあるる
はるあな
あるるはぬ我ふるるるるのふふんるかはれ
ひのひしれるんのるせるるふるてあるる
ふるとるるひるるりられ世中ふるるつるねとあるふるる
めれるるたりてはるるすひてあるる
人まろ

家ふるさとのやどのうめ梅のかうばしき梅ら花
まちとりしたしみひさしそなれ水のうるをみてふよどうらう
いとうんこはりてあくあり行めぐさ時のそそそて
いとふのうのとるあとるもあるとて梅ら行つあんん
世中ふるるくいるそつのあくめんるとはるれて
こたれ新月のもくくようみてはりけるはのひさ
やまひもりくありまるり　紀貫之
ふる猪ふるやるれる月新のみるあれの世ようろ
はいるよみ伝てりくあくありまけるとちん
ゆの集よりそそはる
朱雀院うせさせ給うりとちくありて大臣大伝
宮おされくおりまけるとんそまくせ給て

はる　知衣

これ行の我よりそ水めるも秋ひとすもあるる
歌ちくくさて　よるんんくしく
名知山谷に梅のもくそびるれくくんし我とあはん
やまひくてんありくあるのしを年ふるさんを
みるの花ふるのとそそはるとるんて
きをけらさく　左近番長
みるんの今とあるよたとる貧苦る村るにあけ之ゆり
世のるれるれさとといひてよみはるる
苦う行人ぐされるといひ
歌しくん　ちるくんめ
ひ色しの分のこるみうハ雪山ふる
はふ海　折て

世の中とかくこそんなりけるものの心のしるべ
たゝさとあるこの屋の女人と侍ける所のうち
てあるところにかくとかきつけて

源相方朝臣

袖をあれかはるものあるもなをあるとも我とは後にこそんと
思しるべしとて　よみ人しらず

山ちかき所のかきのもとにふるゆきをいとはるゝ
はかなくあんとていてゝる時に家のうしろにつけて
侍ける　　前大納言公任

うき世とは貴賤ありもの貴とは思ひなんとて
たいしらず　　よみ人しらず

世の中に牛の車のゝるゝ所とおもひのあるとそ出き

はかなくあんとしはけるはかなきのありゝれはたゝ
かくこそとそ侍ける　　藤原ゝ雅

世の中にふるゝはゝあるものの心はかなきものなり
服に侍るゝゝあひゝて侍りける女のあ
まふあるあとにて侍ける　　よしけ

宮ゝ深のゝ人ゝ我のゝとの思ひとゝも世を宵く人も
侍　　よみ人しらず

とゝふるあの夜とゝ人ゝとゝ侍ゝ侍ゝ侍

[illegible] 従四位下左近衛少将長保六年二月三日出家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛政十一年巳未初秋発兌

皇都書舗

小川源兵衛
吉田四郎右エ門
須原屋平左エ門
出雲寺文治郎